



まなびやまと

No.14

平成20年(2008年)10月
大和市教育委員会



和楽器の音色に感動!

中央林間小学校

六月十一日に、中央林間小学校で、四、五、六年生を対象に「箏・尺八演奏鑑賞会」が行われました。

子どもたちには、箏や尺八の美しい音色や曲のよさを味わわせ、鑑賞のマナーも身に付けさせます。実際に、実際に和楽器にふれたり、演奏したりする体験ができる鑑賞会でした。

講師は、箏の与田孝子さん、尺八の奥本林山さんを中心とした学校支援ボランティアの方々です。与田さんは、大和市文化連盟に所属し、和楽器の魅力を伝えるため、市内の各校で箏の演奏活動をしています。

はじめに、児童代表の六年生が、たくさんの箏と尺八を前に「和楽器の演奏を聴いたり、ふれたりすることは初めての体験なので、とても楽し

豊かな日本文化を子どもたちに

和楽器体験・茶道体験

みです。」とあいさつしました。



演奏会の様子

一曲目の「さくら さくら」は、子どもたちもよく知っている曲です。曲の雰囲気と箏の音色の美しさに心を動かされた様子でした。

二曲目は、「春の海」でした。いかにも聴いたことがあるという表情の子どもたちでしたが、箏と尺八の美しい掛け合いに、熱心に聴き入っていました。

三曲目の「北海民謡調」には、途中でソーラン節や江差追分のメロディーが登場しました。四年生は運動会の表現でソーラン節を踊ったこともあって、にっこり笑いながら

聴いていました。

演奏の合間には、与田さんから、箏の弦の数や材料、音の出る構造などが説明され、子どもたちは興味津々の様子でした。めったに見られない十七弦の箏も紹介されました。また、奥本さんからは、尺八の名前の由来や大きさ、百濟から伝わった尺八の原型である雅楽尺八が紹介されました。



箏の体験をする子どもたち

その後、実際に箏や尺八の演奏を体験しました。本物の爪をはめて演奏することが初体験の子どもたちは、先生に手を添えてもらい、「さくら さくら」を演奏しました。子どもたちは「弦が堅くて、弾くときに力があるからとても難しかった。」と感想を話していました。

尺八は、いつも子どもたちが吹いているリコーダーとは

ちがい、音を出すことが難しい楽器です。尺八の持ち方や吹き方、指使いなどを教えてもらいながら挑戦しました。奥本さんの口元を見て、一生懸命まねをしますが、なかなかうまくいきませんが、ななな「息をたくさん入れてもだめ。息をぶつけると話しました。」と話しました。



尺八の体験をする子どもたち



和楽器に親しみ、箏や尺八の演奏や音色の美しさに感動するとともに、演奏者のすばらしい技術を体感した鑑賞会でした。



六月二十七日に、慈徳庵で、緑野小学校の六年生が、茶道を体験しました。茶道を学んだアメリカンスクールのシャーリーランハム校に在籍する子どもたちが、日本の子どもたちを招待しました。

この日を迎えるために、「大和みどり会」の岩本宗翠さんは、夏休みの五日間をつかって、シャーリーランハム校の子どもたちに、「書道をする」「掛け軸を拝見する」「お花を生ける」「お菓子を作る」「お茶を点てる」など、茶道をはじめとした日本文化を教える活動を行いました。岩本さんには、この機会に、日本の小学生にも日本文化を体験してもらい、併せて、アメリカンスクールの子どもたちと交流させたいという思いがあり、実現したものです。色鮮やかな着物のシャー



お茶の作法を教えてもらう



はじめてお茶を点てます

リーランハム校の子どもたちを迎えられ、緑野小学校の子どもたちは、まず、茶室の入り口で座って礼をするところから教えてもらいました。シャーリーランハム校の子どもたちが作ったお菓子をおいしそうにいただき、作法を教えてくださいました。

次は、いよいよ自分たちがお茶を点てる番です。お茶を点てるのは初めての経験とい

う子どもたちが大半で、茶せんさばきもぎこちなく、正座もつらそうでしたが、それでも、自分で点てたお茶をシャーリーランハム校の子どもたちがおいしそうに飲んでくれたのを見ると、ほっとした様子でした。

そのあと、緑野小学校の子どもたちは英語で、シャーリーランハム校の子どもたちは日本語で、自己紹介しながら、カードを交換しました。



「ハロー」交流を楽しむ

緑野小学校の子どもたちは「あれだけ練習したのに緊張して、少ししか話せませんでした。でも、自分が点てたお茶をおいしいと飲んでくれたのでうれしかった。」「もっと、話したいと思いました。今度は私たちがお菓子を作って招待したい。」と感想を話していました。

日本文化の体験と異文化交流の貴重な体験ができました。

豊かなかわり合いで仲間づくり

引地台小「にじいろ活動」を通して



「にじいろ開き」の様子

「にじいろ活動」は、引地台小学校の特色ある活動として、二十五年間続けて取り組んでいるものです。今年度は、昨年度までの活動を見直し、「仲間づくり」をテーマに、豊かなかわり合いを目指して、仲間同士のふれあいを深める活動を多く取り入れられました。

る、「にじいろ開き」を行いました。

全校児童が、六年生をリーダーに十二グループに分かれ、自己紹介をした後ゲームを楽しみました。はじめは、小さな声で、緊張しながら話していた低学年の子どもたちも、徐々に笑顔があふれてきました。

七月二日には、引地台公園で「ウォークラリー」が開催されました。

はじめの集いでは、校長先生から「自分が楽しいだけではなく、みんなが楽しい活動にしてください。公園で会った地域の方にあいさつをしましょう。」と話がありました。

○×ゲームで正解したチームから、校庭や引地台公園にあるチェックポイントに向かって出発しました。チェックポイントでは、様々なゲームを行います。



必ず全員がチャレンジし、協力してクリアしていきま

五月二十一日(水)には、一年間の活動の始まりであ

下福田中学校 伝統のYOSAKOIソーラン



「ドッコイショードッコイ
シヨール」「ハイハイ」校庭
中に、生徒たちのかけ声が響
きました。



「YOSAKOI 発表会」の様子

下福田中学校では、異学年
交流のよさを生かし、豊かな
心の育成をめざして、毎年九
月の運動会の最後の種目で、
全校生徒が「YOSAKOIソー
ラン」を踊ります。今年
で四年目を迎えました。

踊りの練習は、生徒会が中
心になって行います。
七月十六日には、その成果
を披露する「YOSAKOI
発表会」が行われました。
全校生徒を学年男女混合で
赤・青・白の三つのグループ



リーダーに合わせて踊ります

に分け、その中をまたいくつか
の小グループに分けて、グルー
プごとに練習を進めてきまし
た。三年生が、一、二年生に踊
りを伝達していくという方法
で受け継いでいくのです。

リーダーの三年生は「でき
ないところを重点的に教えて
います。一年生は、とても覚
えがはやいです。踊りのパタ
ーンは決まっていますが、構
成は色別で少しずつ違うので、
細かいところを教えるのが
大変です。」一方、一年生
は「動きが速くて覚えるのは
大変です。でも、パターンが
決まっているので、少しずつ
できるようになりました。」
と話していました。



心を合わせて踊ります

練習を見守る先生は「三年
生は、リーダーになり、下級
生に教えることで自分が変わ
ります。先頭で踊った三年生
の気迫が伝わりました。ずい
ぶん成長したなと思います。」
と語っていました。

また、見学に来ていた一年
生の保護者は「初めて踊りを
見ましたが、迫力があり、上
手ですね。運動会が楽しみで
す。」と語っていました。

運動会での発表の他に、三
年生は修学旅行で、瀬戸内海
の島に民泊しましたが、その
ときにこの「YOSAKOIソー
ラン」をお礼に披露しま
した。「YOSAKOIソー
ラン」は、下福田中学校の伝
統として息づいています。

「リンポータンダンス」では、
背中を反らして3つの高さ
のバーをくぐり抜けます。
高学年の子どもたちが、て
こずっていました。



「素振り」は、
引地台球
場前のド
カベン
の前の
像の前
で、全員

で、十回行いました。リー
ダーが「かっこよく振って
ね」と声をかけると、グル
ープみんながそろって素振
りをしました。



「片足
バラン
ス」は、
目をつぶ
って一分
間片足立
ちをし、
立って

られるかを競うゲームでし
た。一分間の片足立ちはつら
いのですが、励まし合って、
真剣に取り組んでいました。
リーダーの六年生は「私
の仕事は、道順をしっかり
確かめて、みんなを連れて
行くことでした。一年生は

ジエスチャーゲームで活躍
してくれたし、三、四年生
は、みんなに声をかけてま
とめてくれました。とても
楽しかったです。」と話
していました。



アスレチックで遊ぶ子どもたち

また、チェックポイント
にいた先生は「リーダーの
言うことをよく聞いて、仲
良く行動できました。仲間
づくりのよさを感じまし
た。」と活動の成果を語っ
ていました。

この「にじいろ活動」は、
十一月には、ものづくりの
発表の場として「にじいろ
秋まつり」を開催し、来年
一月には「大縄大会」へと
続きます。六年生には、責
任と自覚を育て、他学年の
児童には、自主性と仲間意
識をはぐくみながら活動を
続けていく予定です。

ストップ いじめ 子どもフォーラム

「ストップ いじめ 子どもフォーラム」を開催します。

日時：10月18日（土）13：30～16：00

会場：保健福祉センター ホール

内容：（1）いじめ防止に向けた市内小中学校の取組を紹介します。

（林間小学校、深見小学校、つきみ野中学校、下福田中学校）

（2）いじめの未然防止や対応についての講演を行います。

講師 具志堅幸司さん

（神奈川県教育委員・北京オリンピック男子体操監督）

（3）大和市独自のいじめ撲滅宣言を採択します。

児童生徒、教職員、保護者、市民等、誰でも参加することができます。入場は無料で、事前の申し込みは必要ありません。当日、直接会場へおいでください。

皆さんの参加をお待ちしております。

お問い合わせ 教育委員会指導室 260-5210



このポスターは、下福田中学校 美術部1年生の、清水結香さん、熊谷優里さん、栗原那実さんが作成しました。

体育館二階のギャラリーには「学び舎が地域に育って三十年。さらに伸びゆけ明日の鶴間にも」という横断幕が張ってあります。三十年を迎えた本校が、PTAの協力もいただきながら、地域の方々への感謝とともに、未来への願いを込めて作られたものだ

それから三十有余年、校庭の周囲に植えられた桜樹は、毎年四月、入学式とともに祝う存在となり、また、テニスコートのそばに植えられた柳も大樹となり、風とともに涼しげな葉擦れの音を届けてくれます。

昭和五十年創立の鶴間中学校は、今年で三十四年目を迎えます。創立当時は、まだ、体育館がなく、入学式も運動場に杭を打ち、地域からお借りした紅白幕を飾り付けて行ったそうです。また、今はPC教室になっている縦長の部屋に卒業生を集め、保護者の方々には各教室で放送を通して卒業式の様子を聞いていただいたとのことでした。

職業についてイメージを持ちにくい環境に育つ現代の生徒たちに、地域の事業所の方々の協力をいただき、三日間の職場体験をお願いしているトライワークも地域とともに育ってきた本校の姿の一例です。今年八年目を迎えるトライワークですが、昨年は、三十五箇所の事業所のご理解をいただき、挨拶、服装、言葉遣いなどのマナーや職場のルール

「おらが学校」地域とともに

大和市立鶴間中学校

と聞いています。

創立当初から地域とともに育ってきた本校では、今も、地域の方々の理解と協力をいただきながら、子どもたちが、毎日、元気に学校生活を送っています。



職業についてイメージを持ちにくい環境に育つ現代の生徒たちに、地域の事業所の方々の協力をいただき、三日間の職場体験をお願いしているトライワークも地域とともに育ってきた本校の姿の一例です。今年八年目を迎えるトライワークですが、昨年は、三十五箇所の事業所のご理解をいただき、挨拶、服装、言葉遣いなどのマナーや職場のルール

「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽に読んでいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

を通して、働くことの厳しさや楽しさを実際に経験させていただきました。

今、こうした地域の方々をはじめ、様々な人々とのふれあいを通して学びを、「豊かな『鶴舞い市民』の育成」とまなび合い、育ち合う、地域に根ざした学校をめざして」の主題のもと、「ふれあい教育実践研究」としてまとめられています。

夏から秋にかけて、それぞれの地区でお祭りが行われます。地域の子どもから大人まで、人と人との出会いやつながりを大切にしていることを、その場にお邪魔しながら、実感します。本校の吹奏楽部がそうした場にお招きいただき、自分たちよりも幼い子どもたちに演奏を披露したり、おにぎりや豚汁をいただきながら、交流したりする機会もあります。

地域で子どもを育てていくという地域の方々への支援をいただきながら、鶴間中学校は、さらに伸びていくものと確信しています。